

# 自然とかかわり合う体験学習

— 第3学年「太田川探検Ⅰ」の実践から —

島 本 靖

## 1 はじめに

本校では、総合的な学習「環境」を「自分と環境とのかかわりを見据える領域」として設定し、自然とふれあう直接体験の場を大切にしている。そこでは、児童が自分の肌で自然とふれあい環境を調べる場を通して、自然のよさやそれを取りまく問題点に気づくことがねらいになる。

3年生の児童は、これまで広島の三角州を形成する太田川をテーマに学習を進めており、低学年では、学校の近くを流れる猿猴川や元宇品での探検を行っている。そこで思い思いの活動に夢中になることを通して、川へのさらなる親しみや気づきを持つような学習を経験している。中学年では、さらに太田川をさかのぼり、中流域である山県郡加計町安野で「太田川探検」の活動に取り組んでいる。この場所を選んだのは、①西宗川との合流点であり砂地もあること、②緩やかな流れや瀬があり危険な個所が少ないこと、③河原が広く大きな水たまりがあること、④中学校や道路が近くトイレの心配がないことの主に四つの理由による。そして、4年生では「太田川探検Ⅱ」として3年生での経験を生かし、同じ季節（9月）にこの太田川中流域を繰り返し学習することになっている。また、高学年ではさらに太田川をさかのぼり、上流域で自然とかかわり合う体験学習が計画されている。

このように、学年が上がるにつれて太田川をさかのぼり、太田川での体験学習を積み重ねることによって、それぞれの学年における体験が連綿とつながるものと考えている。

## 2 太田川探検隊の実践

### (1) ねらい

豊かな自然の残る太田川の中流地域で活動することにより、身近な環境に関心を持ち、自然を愛護する心情を養う。

- ① 活動に没頭し、夢中になって取り組むことができる。
- ② 川に関する事柄について、疑問を持ったり、発見したりすることができる。
- ③ 活動（体験）したことを自分なりの方法で表現しようとする。

### (2) 活動計画（全12時間）

- ① 第一次 オリエンテーション「探検を計画しよう」  
（4年生から情報収集、探検の計画、準備活動の見通し…………… 4時間
- ② 第二次 体験活動「おもいっきり太田川」…………… 6時間
- ③ 第三次 発表会「探検を伝えよう」…………… 2時間

### (3) オリエンテーション「探検を計画しよう」

#### ① 4年生から情報収集

まず、太田川を1本の川として子どもたちが考えていくために、1年生での猿猴川探検を想起させた。本校の近くを流れる猿猴川は、これから探検する太田川とつながっていることを確かめるとともに、上流と下流の違いを感じさせたいと考えた。

次に、太田川探検の経験者である4年生が、その活動の様子を3年生に伝えていくことのできる場を設定した。探検で活動してみたいことを4年生にあらかじめ質問として伝え、活動テーマごとに直接児童が問答することを通して、活動への見通しを持つことができるようにした。4年生は、付近の地図を作成し説明したり、紙芝居にして教えたりと楽

しい雰囲気の中で進めることができた。来年度は自分たちが教える立場に立つことを自覚させることによって、活動の目的や内容を明確にしたり、活動自体の見直しをしたりした。

## ② 探検の計画・準備・見直し

児童相互のかかわりと安全面への配慮から、同じ活動を計画した児童でグループづくりをした。各グループの活動は、次の通りである。

石集め（川のいろいろな場所で石を集め比べてみる）、魚釣り（道具を持参しポイントを探しながら魚釣りをする）、魚捕り（魚のいそうなところに仕掛けを作って捕る）、スケッチ（川にある具体物や川のある風景を描く）、水遊び（河原でできる遊びを考え実際にしてみる）、石集め（河原にある石を拾って造形活動に利用する）、生物観察（川辺に生息する生物を見つけ観察する）、泳ぐ（川の流れを感じながら浅瀬を泳いでみる）。

活動時間が午前と午後で、3時間あることを伝え、個人でやりたいことや準備するものなどを考えた。予定の変更は現地においても可能なことにしたが、グループで行動することを原則とした。また、この河原での活動は危険をとまなうので、保護者の協力もお願いし20名の参加を得た。また、梅雨の時期であり活動場所の水位・雨量を工事事務所に問い合わせたり、インターネット等で正確な情報を収集することに努めた。前日には、ダムが放流が行われるとの情報が入り、活動前日の夕刻に現地へ出向き、直接目で見て確かめ万全を期せるように心がけた。

## (4) 体験活動「おもいきり太田川」

6月29日、3年生・4年生単式、複式児童170名、保護者21名、引率教諭8名が、バスに分乗して「太田川探検」出発した。3年生は、水が多いこと、水温が水遊びに適していること、魚や虫などの生き物がたくさんいることなどに気づきながら、それぞれの計画した活動に没頭していた。4年生は、3年生での活動（昨年度は秋に実施）を思い起こし、季節の違いを感じながら、見直しを持って活動していた。

### ① 石集めグループ

河原の石は、集めた場所によってその特徴が違うことから、色や形の違う石をたくさん集めていた。石の色や形を生かした造形活動への構想が石集めをしながら広がっていった。学校でペイントした石は、置物や飾りとして大切に使うのだと目を輝かしていた。

### ② 水遊びグループ

水鉄砲で水をかけ合ってズブ濡れになったり、水たまりに寝転がったりして遊んでいた。日常で経験できない遊びは、児童にとって新鮮であり夢中になって遊ぶ様子が見られた。

太田川たんけんたい I

3年 組 ( )

1 太田川たんけんたいでやってみたいこと (活動できる時間は3時間です。)

前半魚をペットボトルのあなでつかまえて水あみで魚をつかまえてかごの中に入れる。後半かごの中にある魚をかんさつする

3 活動にいくまでにどのようなことをすればよいでしょう。

図かんで太田川にどんな魚がいるかしらべる。もっていくもののじゅんぴ

2. どのようなものをもっていけばよいですか

エサ(メダカのエサ)かご水あみ ペットボトルのあな(作れる人は)カメラ

3 活動をまとめます。どのようにまとめたいですか。(みとおし)

時間をまもって、前半魚をつかまえてかごの中にさし入れて食べるか見てみる後半は、かごの中の魚をかんさつして絵をかいたりカメラにとり帰って図かんでしらべる

### 探検の「みとおし」



「水って、気持ちいい」

### ③ 魚釣り、魚採り

天然の魚は、用意に児童に釣られることはなかったが、あちこち場所を変えたり、仕掛けを工夫したりして魚釣りに興じていた。魚採りも、メダカなどの小さな魚しか捕まらなかったが、児童はたいへん満足そうであった。

### ④ 生物観察グループ

生き物の生息している場所を調べてみようという計画を立て、生き物の種類や生息場所の共通点をまとめていた。



「魚は、どこにいる」

協力いただく保護者には、児童の活動についての安全を確保するとともに、助力を通して本校の教育活動に一層の理解を深めていただくことにした。児童の安全確保については、各グループに1名の保護者を配置し、30分に1度児童の人数確認を行い、児童が活動区域を守るよう監視していただいた。

### (5) 発表会「探検を伝えよう」

探検したことをそれぞれのグループで表現方法を考え、発表できるよう準備した。川で集めた実物や紙芝居、自作の地図などを提示して説明したり、活動の様子を劇にしたりして、それぞれが工夫して発表できた。「猿猴川は泥が多かったが太田川は砂や石が多かった」「川の流れが思ったより速かった」のような実感を伴った発見や感想も多く出された。

また、活動は異なっても同じ場所での体験活動を学習していることから、発表に対する質問も活発に行われ、互いに共感する場面も多く見られた。「来年はイカダが作りたい」「魚が釣れるような仕掛けを工夫したい」など、4年生の活動を見たり、今年の活動をふり返ったりして、すでに来年度における「太田川探検Ⅱ」の見通しを発表していた。

## 3 成果と課題

単元の方向目標である「豊かな自然の残る太田川の中流域で活動することにより、身近な環境に関心を持ち、自然を愛護する心情を養う」は、おおよそ達成できたものと思われる。それは、児童の活動に没頭し夢中になって取り組む様子、川に関する事柄について疑問を持ったり、発見したりしたこと、活動したことを自分なりの方法で表現し伝えられたことなどに裏付けられる。

太田川たんけんその①

(7月4日(水)開催)

わたしはとてむびくりしたことがあります。

それは、川のまん中のところは流れが強かったし、ふかかったのでびくりしました。サントルをはいて中に入ったらサントルが流されそうになったので走ってとりにいきまじました。楽しかったことは、さんとさんと、小さな池を作りました。その中に小さな魚をいれようと思ったけど魚がいませんでした。

発見したことは、石くらべて太田川の石のほうがかたいということが分かりました。

気もちよかたことは、川にかたまっていた石をもちよかたことです。

石をあつめて帰りのバスにのっているとき、石にいろいろな絵をかきました。

四年生は石をいろいろな場所で行う人や、形の石をあつめてコレクションにしたいです。

児童の感想から

全身を通して思い切り自然を感じる直接体験は、児童にとって新鮮であり、驚きであった。こうした実感を伴う直接体験は、単に「楽しかった・おもしろかった」という感想にとどまるものでなく、自然のよさやそれを取りまく問題点を知的に探求していくことにつながるものといえる。直接体験を中核にした学習の積み重ねが、自然や社会などの環境に対して主体的に働きかける行動力へと発展することを確認しながら、4年生の「太田川探検Ⅱ」につなげていきたい。